２０２７年度　足利赤十字病院　（病床数　５４０）【１年次】

受入人数	【1年次】３名

常勤・非常勤	研修手当				時間外	休日	勤務時間	休暇				当直／月	宿舎	社会保険・労働保険等
	基本手当		賞与					有給		夏季	年末年始			
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次					
常勤	330,000		（夏） 110,000 （冬） 330,000		1時間当たり約2,660円	第2．4土曜日、日曜日、祝日、7/1（創立記念日） 年末年始12/29～1/3	（月～金曜日） 8：45～17：05 （第1．3．5土曜日） 8：45～12：35	13日 （夏季休暇3日含）			12/29～1/3	約3～4回 平日夜勤：1年次（13,000円） 休日夜勤：1年次（20,800円） 土曜夜勤：1年次（26,000円）※第1．3．5土 休日日直：1年次（20,800円） ※令和6年度より当直を勤務化	宿舎【クロワルージュ日赤】 単身用60戸：病院より徒歩3分 （電気・ガス代、病院定額負担） <設備>ベッド、エアコン、乾燥機付き洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ、IHｸｯｷﾝｸﾞﾋｰﾀｰ（2口）、カーテン、独立式ﾊﾞｽ・ﾄｲﾚ、無料Wi-Fi完備、宅配ボックス、トランクルーム、多目的ルーム、音楽スタジオ完備 <宿舎代>18,000（共益費4,900）	<保険関係：病院で加入> 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、医師賠償責任保険 <福利厚生> 病院の医療費返還（自己負担1,000円のみ／月）、研修・学会費負担、慶弔費支給、職員旅行、歳末パーティ、互助会クラブ活動有り

○ 研修診療科（必修科目）について

科目	研修内容（手技・症例数・指導医数等）
内科	内科において、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、膠原病内科の計6科の専門内科を合計２４週間ローテートする。厚生労働省の卒後臨床研修達成目標のうち、一般目標、基本的診察法、基本的検査、基本的治療法、基本的手技の中の小外科的な手技を除く部分、末期医療、患者・家族関係、医療メンバー、文書記録、診療計画・評価、ターミナルケアなどを修得する。 腎臓内科では原発性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、間質性腎炎、全身疾患に伴う糸球体腎炎、急性腎不全、慢性腎不全などの腎臓疾患を有する患者の診察、治療を入院、外来、コンサルトを通して行い、常時腎臓指導医の具体的な指導を受ける。また、腎疾患診療に必要な手技（ダブルルーメンカテーテルの挿入、腎生検等）のベッドサイド指導を受ける。 透析療法では、血液透析、腹膜透析（CCPD，IPDを含む）、血液ろ過（ECUMを含む）、血液還流、血漿交換を指導医のもとでシャント穿刺を行い、透析患者の管理にあたる。 呼吸器内科では、気管支ファイバースコープ、胸腔穿刺・胸膜生検、トロッカーカテーテルの挿入についての指導を受け経験する。 消化器内科では、研修医は将来的に内科のどの領域を専門分野とするにせよ、上部消化管内視鏡検査の技術修得は必須との観点から上部消化管を中心に指導を受け、将来的に消化器病学を専攻希望の研修医には上部消化管内視鏡検査修得を前提にCF、ERCP、内視鏡的治療等の指導を受けることができる。 循環器内科では、CCU・ICUにて指導医レジデントの指導のもとに、心筋梗塞、狭心症、急性心不全、心原性ショックなどの症例を経験し、蘇生方法、人工ペースメーカー挿入、人工呼吸器による呼吸管理、スワンガンツカテーテルを用いて循環動態の管理の直接指導を受けることができる。 膠原病内科では、RA、SLEなど代表的な疾患の診断・治療を指導医の下で学ぶ。 神経内科では、ｔ-PAを含む脳卒中治療、Full Neurological Examinationを通した神経学的診察・診断と、神経難病を含む非脳卒中疾患についても学ぶ。
救急科	救急の多様な患者の診療経験から、研修医は緊急性と重症度の評価、緊急処置の知識と手技、入院の要否の判断、他科医師への適切なコンサルテーション、などを習得することができる。研修医は救急室での救急診療とともに、入院した救急患者の診療経験も持つべきである。このことによって、救急部外来での初期診療のフィードバックがえられ、また、医療全体の中に占める救急医療の意味を理解することが可能となる。 生命や機能予後に係わる緊急病態、疾病、外傷に適切な対応をするために、①バイタルサインの評価ができる。②重症度および緊急度の評価ができる。③一時救命処置（ BLS = Basic Life Support ）を実行でき、かつ指導できる④二次救命処置（ ACLS = Advanced Cardiovascular Life Support 、呼吸・循環管理を含む）ができる。⑤頻度の高い救急疾患、外傷、緊急病態（ショックなど）の診断と初期治療ができる。⑥専門医への適切なコンサルテーションができる。⑦入院の要否（ disposition：患者処遇）の判断ができる、など習得する。
外科	外科において、外科診療における基本的知識と技術を学ぶとともに、将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に適切な対応ができるように、外科医療チームの一員として診療に携わりながら、外科的疾患への対応、周術期管理を研修する。外科的治療の適応、有効性と限界、その手術術式を理解しながら、プライマリ・ケアの実践に必要な外科的基本手技を身につける。将来、外科系を志望する医師に対しては、これらの導入的な基礎的知識や基本的手技の他、さらに簡単な手術を術者として研修する。各診療科の指導医が研修医の指導にあたり、診療計画を推進する。 経験できる手術手技としては、術者としてはヘルニア根治術、虫垂切除術、痔核根治術、外来プローベなどのいわゆる Minor Surgery から始めて、腹腔鏡下胆嚢摘出術、小腸部分切除術などの小開腹手術の経験を積んでから、乳癌、胃癌、大腸癌の根治術を行う。手術助手としては担当となった患者のすべての手術に参加し、さらに担当以外でも適宜 Major Surgery の第2助手として参加する。検査手技としては、上部消化管造影、注腸造影、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、ERCP、胆道鏡、気管支鏡などを経験する。
小児科	小児科では関連診療領域を含む幅広い知識で患者の病態を把握し，患者中心の全人的医療を実践する。子どもの誕生から，成長し次世代の子どもを持つまでをひとつのlife cycleと捉え，成育医療を実践する。当院指導医ならびに慶應義塾大学小児科学教室指導医による指導を受けて小児期のさまざまな症例を経験し，小児ごとの検査および治療の基本的な知識を身につけ，その重症度を的確に判断し速やかな処置が取れるよう各手技を習得する。
産婦人科	（1）女性特有の疾患による救急医療を研修する。卒後臨床研修の目的の一つに「緊急を要する病気を持つ患者の初期診療に関する臨床能力を身につける」とあり，女性特有の疾患に基づく救急医療を研修する必要がある。これらを的確に鑑別し初期治療を行うための研修を行う。 （2）女性特有のプライマリ・ケアを研修する。思春期，性成熟期，更年期の生理的，肉体的，精神的変化は女性特有のものである。女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解するとともに，それらの失調に起因する諸々の疾患に関する系統的診断と治療を研修する。 （3）妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。妊娠分娩と産褥期の管理ならびに新生児の医療に対する必要な基礎知識とともに，育児に必要な母性とその育成を学ぶ。また妊産褥婦に対する投薬の問題，治療や検査をする上での制限等についての特殊性を理解することは全ての医師に必要不可欠なものである。
精神科	精神科診療の特性について学ぶ。（1）精神疾患に関する基本知識を身につけ，主な疾患の診断・治療計画を立てることができる。（2）精神症状に対する初期的な対応とケアの基本（3）リエゾン精神医学および緩和ケアの基本（4）向精神薬療法の基本（5）簡単な精神療法の技法（6）精神科救急に関する基本的な評価と対応（7）精神保健福祉法（精神科入院形態他）およびその他関連法規の知識及び，適切な行動制限（8）デイケアなどの社会復帰や地域支援体制 B　経験すべき診察法・検査・手技　（1）基本的な診察法（2）基本的な臨床検査 C　経験すべき症状・病態・疾患　（1）頻度の高い症状（2）緊急を要する症状・病態　等 D　緩和・終末期医療　緩和・終末期医療を必要とする患者とその家族に対して，全人的に対応するために心理社会的側面，告知をめぐる諸問題，死生観・宗教観などへの配慮ができる。
麻酔科	★麻酔科は原則2年目に慶應義塾大学病院で4週研修する。 日本麻酔科学会認定研修施設，日本ペインクリニック学会指定研修施設である。 麻酔科では，麻酔技術および術前・中・後管理を修得する。麻酔研修：麻酔を通じ，呼吸・循環管理を中心とした全身管理に必要な基本的手技・知識を学ぶ。集中治療研修：急性に生命危機に陥るような臓器不全あるいはその危険性のある患者の集学的治療を学ぶ。緩和ケア研修：緩和・終末期医療を必要とする患者とその家族に対して，全人的に対応するために必要な手技及び知識，態度を学ぶ。
一般外来	経験症候および経験疾病が広く経験できる外来において、研修医が診察医として指導を受け、適切な臨床推論プロセスを経て臨床問題を解決する研修となっている。

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項
・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めません。
・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。

必修科目の研修ができない場合、選択可能な診療科
神経内科、腎臓内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、膠原病内科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、
心臓血管外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、緩和ケア内科
放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、小児科、産婦人科、外科、精神科、救急科、麻酔科

○研修アピール
足利赤十字病院は、栃木県県南部に位置し、両毛医療圏（人口約75万人）における地域中核病院であります。平成23年7月からは一般病棟全て個室、最新設備の高度先端医療機器を備えた新しい病院が稼働しました。地域医療機関との密接な病診連携を縦横に結び、24時間体制で救命救急センターを整備し、急性期疾患に対してチーム医療で迅速に対応し、高度な質の高い安全な医療を提供しています。一方、紹介率は約70%以上を維持しており、平均在院日数も15日前後となり、地域の医療機関の機能分担と連携の促進がなされています。チーム医療の中で日々初期臨床研修を行っており、各科の部長の協力と教育への熱意によりプログラムがスムーズに運行されています。研修医の要望・改善要項についても聞き入れる機会を設けて、指導医にフィードバックしています。救命医療体制は日医大の全面的な協力のもと充実したプログラムが組まれています。そのため、新臨床研修制度が重視するプライマリ・ケアの修得には最適な環境です。研修プログラムを支援するために院内セミナー、院外セミナーなどの支援プログラムが企画され、救急医療セミナーの一環として、AHAのBLS provider course の受講もできるようになっています。内科系、外科系いずれに進んでも、将来役に立つプライマリ・ケアの力が培われ、しっかりした臨床医としての土台が構築されるものと確信しています。研修医からの評価も年度毎に高まっており、それにつれて、入ってくる研修医自体のレベルも高くなっています。足利赤十字病院では、病院長のリーダーシップの下で、指導医が新臨床研修医の「学習と成長」をひとつのドメインとしております。病院長が臨床研修を通じて人材育成をする努力を怠らないことが肝要と考えます。その際、組織は人であり、その「人」には研修医、医師をはじめとして病院職員を組織の長である管理者が大切にして教育し、育て上げる努力が必要だと日々考えています。
＜院長メッセージ＞
足利赤十字病院は臨床研修指定病院として、年間13名の初期臨床研修医（基幹型）を受け入れています。その内、慶應出身者が多いのですが、他大学からも研修医を受け入れています。移転後のマッチング率も100%と高かった理由は、研修に取り組む病院自体や指導医の熱意、そして当院で成長する研修医の実力を広く医学生の方に感じていただけたからではないでしょうか。足利赤十字病院は、研修医に選ばれる研修病院づくりを試みております。マンツーマンでの丁寧な指導を続けていくためにも13名は適正な数、今後も目の行き届いた研修を提供していきたいと考えています。初期研修は、どこに行っても自分たちのやる気次第だと思いますが、ここではそれに応える環境はそろっており、知識はもちろんのこと、さまざまな手技も覚えられると思います。
また、研修医たちと直に話を聞く機会を設け、意見に耳を傾けています。医療、そして人生の先達として将来を決定するためのサポートを行い、またその意見を初期・後期プログラムの改善に役立てています。そして、各々進むべき方向が決まる初期研修医2年目には指導側と研修医側の信頼関係が増し、研修医たちは遠慮することなくそれぞれ希望を伝えてきます。現在、研修医2年目の研修医は、地域医療、へき地医療に関心が高かったことより、地域医療研修プログラムを導入し、北海道の浦河赤十字病院へ派遣を開始しました。へき地医療では、縦割りでなく、病院が一丸となって、地域医療を支えるチーム医療を実践しています。
当院は平成23年7月に全面移転しました。新病院は分棟型、全室個室の次世代型グリーンホスピタルです。最新の医療機器を備えた一般病棟全室個室の病院や、様々な省エネへの取り組みは医療建築としても注目されており、数々の賞を頂き高く評価されています。平成27年2月には医療施設の国際的な認証機関であるJCI（Joint Commission International）の認証を、赤十字病院として初めて、国内では9番目に取得し、医療の安全、質の向上にも積極的に取り組んでおります。更に、平成29年2月には、検査部門における国際安全基準であるISO15189も取得し、医療の質向上に日々努めております。
平成29年10月に完成した研修医の生活拠点である寮は、デザイナーズマンションのような非常に充実した造りとなっています。是非、当院での初期研修を行ってみませんか。見学、お待ちしています。

○研修医からのメッセージ
足利赤十字病院　初期研修修了
（慶應義塾大学出身）
足利赤十字病院で初期臨床研修を始めて1年、今私が感じる当院の魅力を紹介します。
●病院が広くてきれい
　平成23年に新病院として建て替わった当院は広くてきれいです。病室は全室個室で我々にとっても診療しやすい環境だと感じます。また研修医室が広くて快適なのも研修医にとっては嬉しいポイントです。
●症例が多い
　足利赤十字病院は地域の中核病院であり、様々な患者さんが受診されるため、様々な症例・手技を経験することができます。救命救急センターでの日当直では初期診療の中心的な役割を担うことができ、ここでも多くの知識と技術を身につけたと感じます。
●研修の自由度が高い
　研修内容について各科で柔軟に対応してもらえるため、皆それぞれの志望に沿った研修ができています。当院では研修医だからといって、雑用に追われるようなことはなく、スタッフもみな優しいです。上級医の指導のもと、日々充実した研修生活を送ることができ、この病院で研修をしてよかったと実感しています。ぜひ一度見学に来て当院の魅力を感じてください。

研修実施責任者　　足利赤十字病院　院長　後藤　淳

※問い合わせ先
担当部署・担当者名：　教育研修管理課　係長　伊藤　篤
住所：　栃木県足利市五十部町284-1
TEL：　0284-21-0121　内線2353
E-mail：　a.itoh@ashikaga.jrc.or.jp

２０２７年度　足利赤十字病院　（病床数　５４０）【２年次】

受入人数	【2年次】１名

常勤・非常勤	研修手当				時間外	休日	勤務時間	休暇				当直／月	宿舎	社会保険・労働保険等
	基本手当		賞与					有給		夏季	年末年始			
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次					
常勤		350,000		（夏）350,000 ※4月入職 116,000円 （冬）350,000	1時間当たり 約2,820円	第2、4土曜日、 日曜日、祝日、 7/1（創立記念日） 年末年始12/29～1/3	（月～金曜日） 8：45～17：05 （第1,3,5土曜日） 8：45～12：35		14日 （夏季休暇3日含）		12/29～1/3	約3～4回 平日夜勤：2年次（20,000円） 休日夜勤：2年次（32,000円） 土曜夜勤：2年次（44,200円）※第1,3,5土休日日直：2年次（32,000円） ※令和6年度より当直を勤務化	宿舎【クロワルージュ日赤】 単身用60戸：病院より徒歩3分 （電気・ガス代　病院定額負担） ＜設備＞ベッド、エアコン、乾燥機付き洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ、IHｸｯｷﾝ（2口）、カーテン、独立式ﾊﾞｽ・ﾄｲﾚ、無料Wi-Fi完備、宅配ボックス、トランクルーム、多目的ルーム、音楽スタジオ完備 ＜宿舎代＞18,000（共益費4,900）	＜保険関係：病院で加入＞ 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、医師賠償責任保険 ＜福利厚生＞ 病院の医療費返還（自己負担1,000円のみ／月）、研修・学会費負担、慶弔費支給、職員旅行、歳末パーティ、互助会クラブ活動有り

○ 研修診療科（必修科目）について

科目	研修内容（手技・症例数・指導医数等）
地域研修（在宅を含む）	北海道浦河赤十字病院で行う。浦河赤十字病院は管内唯一の地域センター病院であり，また災害拠点病院の指定を受けており，一次・二次救急医療，急性期医療のほか療養病棟も持ち，精神科医療（地域ケア），リハビリ医療，血液透析，健診，在宅医療，看護学校の運営等の過疎地域では他に類を見ない充実した医療を提供しており，地域医療を学ぶうえで最適な環境となっている。
一般外来	経験症候および経験疾病が広く経験できる外来において、研修医が診察医として指導を受け、適切な臨床推論プロセスを経て臨床問題を解決する研修となっている。
外科	外科において、外科診療における基本的知識と技術を学ぶとともに、将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に適切な対応ができるように、外科医療チームの一員として診療に携わりながら、外科的疾患への対応、周術期管理を研修する。外科的治療の適応、有効性と限界、その手術術式を理解しながら、プライマリ・ケアの実践に必要な外科的基本手技を身につける。将来、外科系を志望する医師に対しては、これらの導入的な基礎的知識や基本的手技の他、さらに簡単な手術を術者として研修する。各診療科の指導医が研修医の指導にあたり、診療計画を推進する。 経験できる手術手技としては、術者としてはヘルニア根治術、虫垂切除術、痔核根治術、外来ブローベなどのいわゆる Minor Surgery から始めて、腹腔鏡下胆嚢摘出術、小腸部分切除術などの小開腹手術の経験を積んでから、乳癌、胃癌、大腸癌の根治術を行う。手術助手としては担当となった患者のすべての手術に参加し、さらに担当以外でも適宜 Major Surgery の第2助手として参加する。検査手技としては、上部消化管造影、注腸造影、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、ERCP、胆道鏡、気管支鏡などを経験する。
小児科	小児科では関連診療領域を含む幅広い知識で患者の病態を把握し，患者中心の全人的医療を実践する。子どもの誕生から，成長し次世代の子どもを持つまでをひとつのlife cycleと捉え，成育医療を実践する。当院指導医ならびに慶應義塾大学小児科学教室指導医による指導を受けて小児期のさまざまな症例を経験し，小児ごとの検査および治療の基本的な知識を身につけ，その重症度を的確に判断し速やかな処置が取れるよう各手技を習得する。
産婦人科	(1)女性特有の疾患による救急医療を研修する。卒後臨床研修の目的の一つに「緊急を要する病気を持つ患者の初期診療に関する臨床能力を身につける」とあり，女性特有の疾患に基づく救急医療を研修する必要がある。これらを的確に鑑別し初期治療を行うための研修を行う。 (2)女性特有のプライマリ・ケアを研修する。思春期，性成熟期，更年期の生理的，肉体的，精神的変化は女性特有のものである。女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解するとともに，それらの失調に起因する諸々の疾患に関する系統的診断と治療を研修する。 (3)妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。妊娠分娩と産褥期の管理ならびに新生児の医療に対する必要な基礎知識とともに，育児に必要な母性とその育成を学ぶ。また妊産褥婦に対する投薬の問題，治療や検査をする上での制限等についての特殊性を理解することは全ての医師に必要不可欠なものである。
精神科	精神科診療の特性について学ぶ。(1)精神疾患に関する基本知識を身につけ，主な疾患の診断・治療計画を立てることができる。(2)精神症状に対する初期的な対応とケアの基本(3)リエゾン精神医学および緩和ケアの基本(4)向精神薬療法の基本(5)簡単な精神療法の技法(6)精神科救急に関する基本的な評価と対応(7)精神保健福祉法（精神科入院形態他）およびその他関連法規の知識及び，適切な行動制限(8)デイケアなどの社会復帰や地域支援体制 B　経験すべき診察法・検査・手技　(1)基本的な診察法(2)基本的な臨床検査 C　経験すべき症状・病態・疾患　(1)頻度の高い症状(2)緊急を要する症状・病態　等 D　緩和・終末期医療　緩和・終末期医療を必要とする患者とその家族に対して，全人的に対応するために心理社会的側面，告知をめぐる諸問題，死生観・宗教観などへの配慮ができる。
麻酔科	日本麻酔科学会認定研修施設，日本ペインクリニック学会指定研修施設である。 麻酔科では，麻酔技術および術前・中・後管理を修得する。麻酔研修：麻酔を通じ，呼吸・循環管理を中心とした全身管理に必要な基本的手技・知識を学ぶ。集中治療研修:急性に生命危機に陥るような臓器不全あるいはその危険性のある患者の集学的治療を学ぶ。緩和ケア研修:緩和・終末期医療を必要とする患者とその家族に対して，全人的に対応するために必要な手技及び知識，態度を学ぶ。

○ 選択科目について（選択できる診療科）

内科	神経内科	呼吸器内科	循環器内科	外科
消化器外科	整形外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外科
泌尿器科	麻酔科	耳鼻咽喉・頭頸部外科	形成外科	救急科
放射線診断科	放射線治療科	リハビリテーション科	緩和ケア内科	精神神経科
小児科	産婦人科	検査部		
備考				

※地域研修の施設は、記載されている協力型病院の施設に限られます。

○ 研修のアピール

足利赤十字病院は、栃木県県南部に位置し、両毛医療圏（人口約75万人）における地域中核病院であります。平成23年7月からは一般病棟全て個室、最新設備の高度先端医療機器を備えた新しい病院が稼働しました。地域医療機関との密接な病診連携を縦横に結び、24時間体制で救命救急センターを整備し、急性期疾患に対してチーム医療で迅速に対応し、高度な質の高い安全な医療を提供しています。一方、紹介率は約70%以上を維持しており、平均在院日数も15日前後となり、地域の医療機関の機能分担と連携の促進がなされています。チーム医療の中で日々初期臨床研修を行っており、各科の部長の協力と教育への熱意によりプログラムがスムーズに運行されています。研修医の要望・改善要項についても聞き入れる機会を設けて、指導医にフィードバックしています。救命医療体制は日医大の全面的な協力のもと充実したプログラムが組まれています。そのため、新臨床研修制度が重視するプライマリ・ケアの修得には最適な環境です。研修プログラムを支援するために院内セミナー、院外セミナーなどの支援プログラムが企画され、救急医療セミナーの一環として、AHAのBLS provider course の受講もできるようになっています。内科系、外科系いずれに進んでも、将来役に立つプライマリ・ケアの力が培われ、しっかりした臨床医としての土台が構築されるものと確信しています。研修医からの評価も年度毎に高まっており、それにつれて、入ってくる研修医自体のレベルも高くなっています。足利赤十字病院では、病院長のリーダーシップの下で、指導医が新臨床研修医の「学習と成長」をひとつのドメインとしております。病院長が臨床研修を通じて人材育成をする努力を怠らないことが肝要と考えます。その際、組織は人であり、その「人」には研修医、医師をはじめとして病院職員を組織の長である管理者が大切にして教育し、育て上げる努力が必要だと日々考えています。

＜院長メッセージ＞

足利赤十字病院は臨床研修指定病院として、年間13名の初期臨床研修医（基幹型）を受け入れています。その内、慶應出身者が多いのですが、他大学からも研修医を受け入れています。移転後のマッチング率も100%と高かった理由は、研修に取り組む病院自体や指導医の熱意、そして当院で成長する研修医の実力を広く医学生の方に感じていただけたからではないでしょうか。足利赤十字病院は、研修医に選ばれる研修病院づくりを試みております。マンツーマンでの丁寧な指導を続けていくためにも13名は適正な数、今後も目の行き届いた研修を提供していきたいと考えています。初期研修は、どこに行っても自分たちのやる気次第だと思いますが、ここではそれに応える環境はそろっており、知識はもちろんのこと、さまざまな手技も覚えられると思います。

また、研修医たちと直に話を聞く機会を設け、意見に耳を傾けています。医療、そして人生の先達として将来を決定するためのサポートを行い、またその意見を初期・後期プログラムの改善に役立てています。そして、各々進むべき方向が決まる初期研修医2年目には指導側と研修医側の信頼関係が増し、研修医たちは遠慮することなくそれぞれ希望を伝えてきます。現在、研修医2年目の研修医は、地域医療、へき地医療に関心が高かったことより、地域医療研修プログラムを導入し、北海道の浦河赤十字病院へ派遣を開始しました。へき地医療では、縦割りでなく、病院が一丸となって、地域医療を支えるチーム医療を実践しています。

当院は平成23年7月に全面移転しました。新病院は分棟型、全室個室の次世代型グリーンホスピタルです。最新の医療機器を備えた一般病棟全室個室の病院や、様々な省エネへの取り組みは医療建築としても注目されており、数々の賞を頂き高く評価されています。平成27年2月には医療施設の国際的な認証機関であるJCI（Joint Commission International）の認証を、赤十字病院として初めて、国内では9番目に取得し、医療の安全、質の向上にも積極的に取り組んでおります。更に、平成29年2月には、検査部門における国際安全基準であるISO15189も取得し、医療の質向上に日々努めております。

平成29年10月に完成した研修医の生活拠点である寮は、デザイナーズマンションのような非常に充実した造りとなっています。是非、当院での初期研修を行ってみませんか。見学、お待ちしています。

研修実施責任者　足利赤十字病院　院長　後藤 淳

※問い合わせ先

担当部署・担当者名：　教育研修管理課　係長　伊藤 篤

住所：　栃木県足利市五十部町284-1

TEL：　0284-21-0121　内線2353

E-mail：　a.itoh@ashikaga.jrc.or.jp